

女性のこころとからだの相談室

Consultation Room for Women's Mental and Physical Health

女性のこころとからだの相談室長

小西 郁生



女性とその家族のための こころとからだの相談室

思春期・青年期の心理相談、成人・更年期・老年期相談、子どもの発達相談、妊婦・不妊・不育相談、母乳・育児相談など、女性の心と体に関する幅広い悩みに対応する相談室である。医師に相談するほどでもないが、自分では解決できない問題を、専門家にゆっくりと時間をかけて相談をしたいと思われている女性、および、当院産科婦人科に通院している妊婦・褥婦さんが対象である。助産師、保健師、看護師、作業療法士、理学療法士、臨床心理士の資格を持つ医学部人間健康科学科の教員や病院の助産師が相談にあっており、家族の方からの相談も受け付けている。

代表的診療対象疾患

女性の身体的心理的諸問題すべて

更年期障害、月経異常、不妊相談、母乳トラブル、断乳相談、育児相談、子どもの療育問題、リンパ浮腫に対するセルフケア、睡眠問題、中高年者の健康増進など

業務内容の特徴と実績

幅広い相談内容に対応

女性のこころとからだの相談室は、女性そのライフサイクルにおいて遭遇する健康問題に対して、こころとからだの両面から総合的に相談に応じることを目的としている。

相談室は、保健師、助産師、看護師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士の資格を持つ医学部人間健康科学科の教員が担当している「相談室」と、北病棟2階（産科分娩部）勤務の助産師が担当している「ママ・ベビー相談室」との2本立てで相談を行っている。

前者の相談業務は、子どもの療育相談から手術後のリンパドレナージ実施など幅を広く設定し、一般女性とその家族を対象としている。まずは電話で相談予約受付（火曜日と木曜日の午後1時から3時まで受付）を行い、曜日毎に違った専門家が相談業務を受けている。

後者の「ママ・ベビー相談室」は、当院産科婦人科に通院中の妊婦・褥婦を中心に、乳房ケアや育児相談、生活指導などを毎日実施している。また、熟練した助産師が専門的に相談に応じる、「助産師ケア外来」も始まり、妊娠する前の不妊カウンセリングから離乳食相談まで、女性が子どもを産み育てるうえで生じるさまざまな相談に応じている。

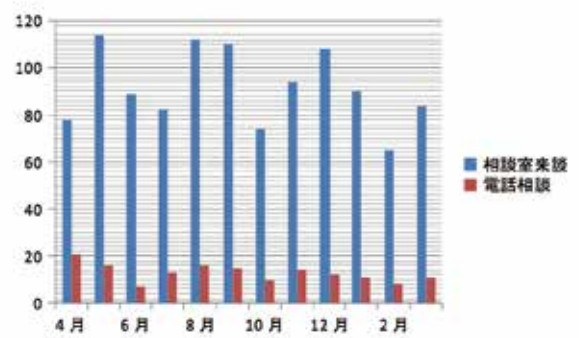
実績

人間健康科学科教員担当の相談室：

2012年度の延べ相談件数は、96件であった。

ママ・ベビー相談室：

2012年度の延べ相談件数は、1,254件であった（表参照）。



2012年度「ママ・ベビー相談室利用者数」